

娘ら目を輝かせて医療体験

木村律子 47

医療事務

(総社市)

10月28日、山陽新聞社で催された「さん太マルシェ」に赴いた。娘が楽しみにしていた川崎医科大学総合医療センター「わくわくキッズ医療体験セミナー」に当選したのだ。

まず、子どもたちはドラマの手術シーンで目にする緑色の手術着を身にまとい、ドクターに変身した。オペが始まった。鉗子かんしを操り、2本の輪ゴムを結わえる作業。手を使えば、あっという間にできる手技ではあるが、なかなか思うように事が進まない。

次に超音波器具を使い鶏肉を切る。ただボールペンにコードが付いただけのように見えるその器具で、鶏肉が切れるとは思えない。しかし、その器具が鶏肉の上をなぞると、鶏肉はいつも簡単に切断された。切断面はまるで鋭利な刃物を使ったかのように美しい。

子どもたちは、きらきら目を輝かせながら、どのコーナーにおいても真剣に取り組んでいた。この体験で、おのおの収穫があり、さまざまな思いを抱いたことだろう。

企画してくださったスタッフの皆さまにお礼を申し上げます。